



## 特集 小菅の里

あなたの好みの旅、みつけませんか  
—北陸新幹線で信州、飯山へ—



飯山の中心市街地から少し離れたのどかな集落。  
 ここでかつて 300 を超える僧侶らが  
 修験に励んでいたという史実は  
 にわかには信じがたいものです。  
 しかし、ひとたびその地に立てば  
 「神の森」と称される森は果てしなく荘厳で  
 過疎化が進んでいてもなお  
 美しさと気高さをまとっていることに気づきます。  
 その集落は「小菅の里」として  
 国重要文化的景観の指定を受けました。  
 文化と暮らしが風景に、人に投影された  
 美しき、小菅の里へ。

写真：小菅神社 三の鳥居



表紙：小菅地区の民家の敷地に鎮座する屋敷神

「飯山旅々。」とは  
 信州、飯山の地元密着型の  
 旅のプランを届けるウェブ  
 サイトです。その数多ある  
 旅を、背景にある物語とと  
 もに知ってほしいという思  
 いから、本誌「飯山旅々。」  
 は生まれました。登場する  
 のは、旅のプランで会いに  
 行ける場所や人。飯山の温  
 もりを、紙の手触りととも  
 にお届けします。みなさん  
 の、旅のきっかけになりま  
 すように。

春号 / 目次

- 1 連載 いいやまのおばあちゃん
- 2 巻頭特集 「小菅の里」
- 3 小菅山
- 5 文化的景観
- 7 歩く小菅
- 9 柱松柴灯神事
- 11 菜の花
- 13 飯山旅々。春夏のおすすめ旅
- 14 連載 いいやま うまいもの



聞き手・書き手：飯山に来て6回目の冬を越えた  
 柴田さほりさん

④ 小菅に暮らすヒロセマサさん  
 飯山の福島集落からお隣の小菅集落に  
 お嫁に来て数十年。毎日ご先祖様と仏  
 様に手を合わせ、家の外に出れば天気  
 がいいと妙高山が見えて…。「ずっと  
 暮らしているから、ここがいいところ  
 かどうかはわからないけど、この人  
 間はいいしょだよ」とは、マサさんの  
 言葉。雪が降るのもあたりまえ、何も  
 特別じゃない。あたりまえにここ、小  
 菅に暮らしているというマサさんの、  
 カメラのレンズに恥ずかしがるすてき  
 な笑顔に出会えました。

いいやまのおばあちゃん





# 小菅山

時は白鳳年間、1300年以上の昔。  
修行者の開祖、役小角が小菅山を開いたのが  
小菅の里の、はじまりです

飯山駅から北へ車で20分ほど、千曲川から少し東に位置する集落が、小菅の里です。

三方を山に抱かれたこの里は、役小角えんのつねが小菅山こすげやまを開山し、岩窟いんくつに八所権現を祀ったのがはじまりとされます。その130年あまりのちの大同年中（806～810年）に小菅山元隆寺がんにゅうじが創建されたと伝えられています。

中世以前は奥社本殿から参道南の伽耶吉利堂かやきりどう跡、そして斑尾山に向かう軸に、中近世には現在の参道から妙高山に向かう軸に、それぞれ霊場が構成されていたと考えられています。

戸隠神社、飯綱神社とともに、北信濃の三大修験霊場のひとつとされ、多くの修験者が風切峠を越えてやってきました。最盛期には37もの宿坊が並び、山あいの里に僧侶や修験者ら300人もの人が暮らしたというから驚きます。

永禄4（1561）年の川中島合戦の折に武田勢により焼き払われ、その後は飯山城主らの尽力で修復・再建を果たしてきました。

現在は奥社、里宮、護摩堂、菩提院、菩提院観音堂、講堂、仁王門などが残る一方で、昭和30年代まで霊場一帯を支配した元隆寺の別当の屋敷・大聖院は石垣や跡地の面影を偲ぶのみとなり、宿坊もほぼ姿を消しました。

高度成長期を経て里の人口も減り、今は一見のどかな農村風景を呈します。その一方で神に護られた気配が圧倒的に漂うことも、事実です。

小菅神社 参道 杉並木  
集落の東端に三の鳥居が立ち、そこから小菅神社奥社へと参道が伸びる。参道沿いに約600m続く杉並木は樹齢300年ほどで、県の天然記念物に指定されている。



# 文化的景観

往時を伝える暮らしが残る  
その景観を消すことなく  
未来につなげていくために



## 文化的景観とは…

地域における人々の生活または生業および当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活または生業の理解のために欠くことができないもの。

かつて修験霊場として栄えた賑わいを今にみることは叶いません

が、集落には院坊が並んだ石垣と平場による地割が今もその姿をとどめ、特徴的な風景をつくりだしています。

石垣とともに小菅の風景を印象づけるのが「水」の存在です。小菅の人々は、小菅山の雪融け水を上の平用水路と内山用水路によって北竜湖に運び、そこからさらに集落へと引きました。それに加えて断層活動による水も豊かに湧き、集落を歩くとゴウゴウと水の流れる音がします。とくに雪融けの水音と水量は強く印象に残ります。

各戸に水を引き入れ「カワ」と呼ばれるため池をつくります。冬は雪を融かし、夏は野菜を冷やす、カワは暮らしに欠かせないものの人々は口を揃えます。

こうした石垣や豊かな水を有する森は偶然残ったのではなく、「オテンマ」と呼ばれる住民の共同作業の賜物。消えていったものもある一方で、宗教とともに、日々の暮らしが里の風景を築き守ってきた

たのです。

こうした風景や暮らしが評価され、小菅の里は平成27(2015)年1月「小菅の里及び小菅山の文化的景観」に指定されました。ここに至るまで、信州大学名誉教授の笹本正治先生らが住民のための勉強会を何度も開いてくださったそう。

「笹本先生に、全員が学芸員にな

をなくしちゃいけない」

多くの地方で耳にする「ここには何にもなくて」という言葉が出てくることはありません。しかし、年々人口が減っているのも事実。「ひとりでもふたりでも増えてくれたらうれしいけど、どこかんと増えてほしいわけでもない。この暮らしをきちんと理解してくれる人なら。移住とはい

## 全員が学芸員にならなくちゃだめだ！

らなくちゃだめだ」って口酸っぱく言ってもらってね」と、住民でつくる「里づくり委員会」の吉原和義さん(72)。その甲斐あって吉原さんの小菅の知識はもちろん、原さんの小菅の知識はもちろん、文化的景観への思いも、ここに暮らすことへの誇りもひとしお。

「少子高齢化で、役員もオテンマも、祭りも大変だけど、石垣があつて畑があつて、水路で野菜洗って、そういう暮らしこそが文化的景観だから、こんなに素晴らしいもの

わない、まずは交流人口を増やすところから」と、につきり。そして「どうやったらこの村が良くなるか考えないと、終わっちゃうからね」と。

これほどの歴史を持ちながら、時代の変化のなかで「変わる」のではなく、「終わる」危険にさらされてきた小菅の里。

役小角が開山したといわれてから1300年余が経った今、小菅を慈しむ人の手で、古くて新しい小菅の里が、かたちづくられようとしています。



小菅の里及び小菅山の文化的景観(主な重要構成要素)

- ① 集落の民家
- ② 二の鳥居
- ③ 集落の石垣
- ④ 桂清水
- ⑤ 講堂および講堂庭(市有形文化財)
- ⑥ 神戸の大イチョウ
- ⑦ 護摩堂(市有形文化財)
- ⑧ 小菅神社杉並木
- ⑨ 奥社参道遺構群
- ⑩ 小菅神社奥社本殿(国重要文化財)



里づくり委員会の一員の吉原さん



# 歩く小菅

奥社本殿までは山を登ること約1時間。  
里をめぐる散策は、気軽で心癒される道程です。



小菅神社 奥社本殿

草創は白鳳8(680)年  
険しい山道の先に建つ国の重要文化材 **a**



観音堂

小菅山の中腹から現在の場所へ  
馬頭観音を祀る信濃33観音霊場の第19番札所



講堂・講堂庭

阿弥陀如来坐像は享保17(1733)年作  
柱松柴灯神事はこの庭で **b**



小菅神社 里宮

神楽殿と本殿(写真)からなる里宮  
万治3(1660)年松平忠俱が改修 **e**



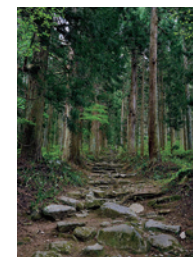
菩提院

もとは真言宗の宿坊「桜本坊」  
大日如来がご本尊です **c**



仁王門

鳥居のほかに、仁王門も  
道路改良前はここをくぐって道は左右へ **f**



**参道**  
三の鳥居から約600mに渡り樹齢300年ほどの杉が約180本が並ぶ。奥社までは約1時間

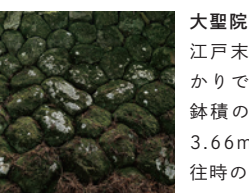
**食事処浅葉乃庵**  
そばや甘味がいただける。庭園の山野草が美しい



**大聖院跡地**  
元隆寺の別当の住まい跡。明治2(1869)年に廃絶になり、昭和に建物も壊された



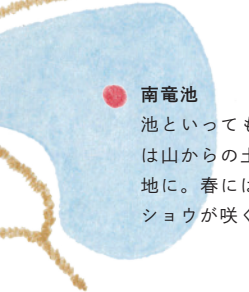
**大聖院石垣**  
江戸末期に3年かかりで築かれた梅鉢積の石垣。高さ3.66m、幅66m。往時の隆盛を示す



**桂清水**  
大きな桂の木の脇に湧いていたことから命名  
かつての院坊の跡を偲ばせる石垣。現在は農地や宅地に



**南竜池**  
池といっても、現在は山からの土砂で湿地に。春にはミズバショウが咲く



石仏や小さなお墓が並ぶ郷愁に満ちた風景



民家の玄関脇などにあるカワ

**仁王門**



奥社を背に参道に立つと遥かに妙高山。お彼岸には妙高山に沈む夕日が見られる



各戸の敷地内に祀られた屋敷神。水の流れと相まって心和む



**パワースポット**  
小菅神社奥社を踏破しよう!  
7月1日◎～11月30日◎  
1泊2日 / 旅行代金1万5500円  
奥社を目指す健脚向けプラン。途中からは急な斜面。登り切った先の奥社は懸崖造りで厳かな気配が漂います。※足腰に不安のある方は参加不可

写真：飯山ふるさと案内人の小坂晶子さん



# 柱松柴灯神事

はしらまつさいとうしんじ

3年に一度の天下の奇祭。修験の里として栄えた名残がここに



小菅神社では元旦祭からはじまり、春祭り、斎田祭、大祓、秋祭りなど、一年を通じてさまざまな祭りが執り行われていますが、なかでも盛大に催されるのが7月の式年大祭です。歴史は古く、中世以前にさかのぼるとされています。

見どころは国の重要無形民俗文化財に指定されている「柱松柴灯神事」、通称「小菅の松子」。修験者たちの験くらべと、農作物の豊凶を占う火祭り神事の側面を持つています。

里からは2人の「松神子」が選ばれ、事前に参拝をし、祭り1日目の午後には大聖院跡護摩堂で禊を受けて奥社へ上がり、一晚籠ります。

翌日は松子若衆と呼ばれる12人の青年たちが二手に分かれ、講

堂前の祭式場に立てられた「上」<sup>かみ</sup>「下」<sup>しも</sup>2本の柱松に、競いながら松栴、尾花、燧箱の順に泰安します。柱松は高さ4mほどで、わらを束ねてつくられています。

そこに古式ゆかしい柱松行列とともにやってくるのが、燧金を携えた2人の松神子です。松神子たちは松子若衆の力を借りながら柱松に上り、火口、付木、尾花と点火し、その速さを競います。点火の合図は面を被り、おどけた仕草で笑いを誘う松太鼓手（くねり山伏）の太鼓です。

上が先なら天下泰平、下が先なら五穀豊穰と、どちらが先に点いてもやってくるのは幸せな暮らしに変わりありません。

かつては毎年7月14・15日に執り行われていましたが、人手や資金がかかることもあり、現在は3年に一度、7月第3土・日曜の開催に変わりました。

2016年は3年ぶりの開催の年。準備は1年前からはじまり、里にはどこか高揚した雰囲気があります。

上が先なら天下泰平  
下が先なら五穀豊穰

柱松の燃え残りの松栴や尾花は虫除けになるといわれ、このあと柱松が倒れると、見物人はこぞって奪い取りあいます



柱松柴灯神事（2016年）  
講堂・小菅神社里宮ほか  
7月16日㊤・17日㊤

信越自然郷飯山駅観光案内所  
TEL 0269-62-7000

写真：松太鼓手

柱松柴灯神事の直前に神輿渡御（みこしとぎよ）が執り行われます。小菅神社の主祭神である素戔鳴尊（すさのおのみこと）が乗座し、雅な行列とともに里宮から祭式場の御旅所へと向かいます





あいらぶなのはな！(10787円)

菜の花を楽しむ2日間

5月3日⑨～5日⑩

1泊2日 / 旅行代金1万787円

唱歌『朧月夜』に語られた菜の花

畑を満喫したあとは、菜の花御膳

を堪能。お泊まりは農家民宿へ。

# 菜の花

黄色い花が咲きはじめたら

それは飯山の、小菅の、春の訪れのしらせです。

温泉付きのスイートルームに宿泊

優雅な時間を満喫！

7月1日⑭～

2017年3月30日⑮

1泊2日 / 旅行代金1万7900円

長野県自然百選のひとつ、北竜湖

畔の温泉バスルーム付きのお部屋

でくつろぎのひとつときを。



## いいやま菜の花まつり

33回目となる「いいやま菜の花まつり」。黄色い絨毯のなか音楽祭や野点、餅つき、郷土料理の屋台と心温まるもてなしが楽しめます。千曲川を見晴らす飯山市立東小学校付近で開催。まつりは5月3～5日、開花期は4月下旬～5月中旬。

## 北竜湖

江戸時代、自然池だった早乙女池を広げて現在のハート形の湖に。湖岸は野沢菜種の採取場。山中のため多品種と交雑する心配がないからです。5月中旬には菜の花と木々の芽吹きが見事。小菅の旅の宿泊は、北竜湖畔の文化北竜館へ。



